

目に青葉の美しい季節が今年も巡ってまいりました。フリーになって一年、どうにか食べて来れたのは支えていただいた多くの方々の力と感謝しながら、この一年アマダイ通信が間遠になったことに己の底の浅さを感じつつ第14号を送ります。

◎全共闘運動30周年、団塊議員ネット3周年へ

昨年は前半が神戸の「酒鬼薔薇」事件、後半は経済不況から金融危機と暗い事象が次々と襲いかかり、如何にも世紀末を象徴する様な一年でした。

思えば産業革命を経て、社会主義運動が始まり、社会主義国家ソビエト連邦が19世紀初頭に成立するまで一世紀余。そしてソ連が崩壊するまで又、一世紀近く。「結果の平等」の追求がソ連圏や北朝鮮に見られる様に軍隊による強制へ、軍事独裁国家へと結果し、結局「悪平等」でしかなかった以上、今や「機会の平等」へ。メガコンペディションが声高に叫ばれる市場競争万能の時代へ。体制の優劣を競い、むきだしの競争を社会福祉のオブラートで包まざるを得なかった時代から、今又、弱肉強食の一世紀へ歩を踏み出した感じがしないでもありませんが、遍く選挙で一票を投じ、高等教育も行き渡り、つい三十年前には堪え難いほどに環境を汚し、外部不経済として市場では解決不可能と思われていた産業公害でさえ市場に取り込み、解決を計らざるを得ないほどに破壊された地球環境と市場の懐の深さが現実とすれば、決して一世紀前に時計の針が戻ることはない。しかし、次の百年の姿がなかなか見えて来ないが故の、世紀末の政治、経済の混乱でしょうか。

かってノイズイマジョリティとして時代に物申し、今サイレントマジョリティとして混乱の時代の皺寄せを受ける我々団塊の世代。次の一世紀に向けて、激動の時代こそ我々の時代。政治の世界も自民党政権に戻って旧態依然たる感がありますが、小選挙区制の効果もあいまち、団塊の世代、とりわけ団塊議員ネットワークの会員の活躍が目立ってきました。一年生ながら自民党総務会で公然と中曽根批判を展開、知事選で引責辞任した三塚前蔵相の後任の自民党宮城県連会長に就いた中野正志代議員。新進党解体・政界再編の引き金を引いた上田清、並木正芳、山本孝史代議員。政界再編・野党結集で先頭に立つ菅直人、鳩山由紀夫、海江田代議員。金融危機の陣頭で頑張る自民党の坂井隆憲代議員。介護法成立で活躍した菅直人、今井澄等の国会議員。とりわけ宮城県知事選で圧勝した浅野史郎知事は新たな政治の可能性を示してくれました。同じ小選挙区制の衆議院議員選挙でも応用したら結果を大きく変える可能性があるのではないのでしょうか。前哨戦の夏の参議院議員選挙を前にして新「民主党」が結成されますが、政権交代可能な勢力に育てて欲しいと思います。政権交代、情報公開、地方分権が可能になれば日本も大きく変わるでしょう。

折から今年は今共闘運動三十周年。関わり方は千差万別でも、共に時代の空気を吸い、それぞれの思考と行動のスタイルを学んだ我々団塊の世代。自分達の子供の世代のためにも、「よほど」かどうかは別にして「変わり者」（浅野知事）に立ち返り、「日本をどうする」、「地球をどうする」と横議横行する必要があると思います。我々団塊議員ネットワークも、共に学び、広く交流し、それぞれ元気に活躍したいものです。

◎ウリ坊死してD-ネット独り立ち

昨年二月、アマダイ通信12号で「ウリ坊に愛の手を」と資金難で餓死寸前のプロジェクト「猪」へのカンパを呼び掛けたところ、何人かの読者から十万円ほどの寄金をいただきました。ありがとうございました。しかし皆様のご厚意にもかかわらずウリ坊は四才の誕生日を迎えることなくこの度、安らかに永久の眠りにつくことになりました。餌代の借金が数百万円に及び、「全共闘白書」（新潮社）、「団塊の世代議員白書」（講談社）の出版に次ぐ収益源にもと目論んでいた「団塊霞ヶ関白書」の刊行も、後藤田正晴氏や堀田力氏、下河辺淳氏等有力官僚OB十氏のご賛同をいただいたにも拘らず「官僚叩き」の風潮の中でアンケートが思うように集まらず延び延びになってしまいました。又、私が代表世話人を務める団塊議員ネットワークの活動が突出し、プロジェクト猪の一分科会であることの不自然さも目立つようになりました。そういう訳でプロジェクト猪は借金を含めて一度清算し、「団塊議員ネットワーク」（干場革治代表世話人）と新生「プロジェクト猪」（高橋公代表）はそれぞれ別々の道を歩むことになりました。借金は各運営委員が大学別に「能力に応じて」負担することになり、寄せていただいた寄金は清算金の一部に充てさせていただきました。長銀総研のバンカーでもある運営委員の荒岡君が枠組みを作った清算は何か世の中で進行するバブルの清算劇にも似ていましたが、提出した清算金は銀行の貸し倒れ引き当て金と違って無税償却とは行かないのが痛いところ。それでも三年間のお楽しみ代ウン十万円で、新しい仲間が沢山出来、随分楽しくもあり勉強にもなりました。

ところで、「団塊の世代議員白書」の出版を期にプロジェクト猪の「政治分科会」として出発した団塊議員ネットワークですが、これからは政治を考える団塊世代の情報交流・発信の場、政治家と市民の交流の場としてより一層活発に活動して行きたいと思えます。これまでの月例の勉強会やシンポジウム、交流会は勿論、「団塊霞ヶ関白書」等の調査研究・出版活動、会員による各自治体でのNPO（市民活動）条例作り等の市民立法活動、このままでは大量の失業者を生み出し社会不安の元ともなるだろう団塊世代を中心とした高齢者の活躍の場を作るための社会運動、「団塊世代の人材情報バンク」を標榜しながらプロジェクト猪では果たせなかったシンクタンクならぬシンクネットへの発展などが出来れば素晴らしいと思えます。

取り敢えず六月六日（土）午後四時に四谷の交済会館で第三回総会と記念シンポジウム、懇親会を行います。総会では名称変更を含めて団塊議員ネットワークの新しい組織とこれからの活動について討論します。記念シンポジウムは岩波新書で「戦後の日本経済」を分かりやすく論じている東大社会科学研究所の橋本二郎教授をメイン講師に、「これからの日本経済と地域経営」を論じたいと思えます。奮ってご参加下さい。

◎「団塊霞ヶ関白書」のアンケートにご協力を！

30年前大学では果てしのない議論が続いていました。大学を、日本を、世界をどうするのか。思いっきり背伸びした若者の、水をかけると湯気が上がるような熱い論争が、時に腕力を伴いながら至る所で繰り返されていました。実際ストライキを巡って賛成派と反対派が雨の中でスクラムを組んでぶつかった時には湯気が上がったものでした。

そんな湯気の傍らで植田君、君とも議論しましたね。ストライキ解除後君はさっさと大学を卒業して建設省に入り、今は成田の東京国際空港公団に出向していますが、私の二回目の一年生の時の同級生の君は「干場さん、ストライキ止めましょうよ。勉強して社会に出て、登りつめてトップになって、そうしたら世の中変えられるじゃないですか」と言ったものです。それに対して僕は「世の中に合わせて自分を変えなければ今の世の中でトップになることは出来ない。トップになった時は相手に絡めとられて身動き出来なくなっている。だから今変えるしかない」と説得したものでした。

私が機動隊から放水や催涙ガスを浴びながら何度も空港建設反対を叫びデモに通った成田で、私が発起人の一人に名を連ねた「団塊霞ヶ関白書」の出版に向けた二百項目もの膨大なアンケートを受け取り君は何を思ったのでしょうか。二期工事に向けて国が反対派農民との話し合いのテーブルに着き、用地の強制収容をしないと約束する一方で、沖合展開で拡張した羽田空港をもう一度国際線に使おうという話が出るのは、成田空港の計画がそもそも失敗だったと認めることです。最近では住専の処理で公的資金を使ったことも国の政策の失敗と総括されていることでしょうか。そして「行政改革」が省益の突っ張り合いで数合わせだけで終わったことも、内心ではこれでいいのかと思っているのではないのでしょうか。君達の多くがこれまでと同じではやって行けない、変わらなくてはと思いながら、自己変革出来ず、無駄な争いの末にあんな結末になったのでしょうか。

しかし組織としての利害の主張は別として、君達個々のかくあるべしとの思いはある筈です。「今変えるしかない」と突っ走った私達は若くして一敗地にまみれ、不器用な者はまだ自分を立て直すことで精一杯です。それなのに「登りつめて変えよう」と主張した君達が、登りつめたら縦割り組織の利害の主張に明け暮れ、御身大事と身内にばかり気を配り、退職後の天下りを気にしているのだとしたら、この日本はどうなるのでしょうか。確かに働き盛りの五十歳そこそこで勇退を迫られるキャリアの人事システムは問題で、その経験と能力をもっと有効活用することは国家として必要であると私は思います。だが世間一般の思いは違います。青春の志の幾許かでも残っているとしたり、自らの思いの丈を語って欲しい。内部での主張が実を結ばぬなら、外の意見表明の場を借りたっていい。聞くところによればある省では官房から内々にこのアンケートに答えるなど達しが出たと言う。つまらないノーパンしゃぶしゃぶやら、大蔵省や日銀の金融機関との癒着やらがセンセーショナルに取り上げられ、過度に警戒しているのかも知れませんが、内容的には全う過ぎるほどのアンケートです。まして匿名を前提として個々の意見が直接出る訳ではなく、統計処理した上で、傾向として発表されるものです。それぞれ二万部ほど刷った「全共闘白書」（新潮社）、「団塊の世代議員白書」（講談社）と来て、まだ団塊世代の官僚が現役でいる間に日本の中樞を担う「霞ヶ関」の実態とあるべき姿に迫ろうと始めた「団塊霞ヶ関白書」ですが、余りにもタイミングが良過ぎてアンケートの集計が遅れています。最低百くらいはと思っていたのですが、現在七十通ほどで作業を進めています。内容的にはなかなか面白いし、意図し増幅された官僚叩きが横行する今だからこそ、是非出版にまでこぎ着けたいと思います。長過ぎて答えるのに骨が折れると思いますが、手元にない方にはお持ちしますので、まだの人は是非アンケートに答えて下さい。

◎団塊レインジャーの勧め

昨秋十月三日の第八回D-NET勉強会で上原美都夫警察庁官房総務課長（S43年入寮）に講師をしていただき、最近の警察行政についてのお話を伺いました。冷戦体制が崩壊し取り敢えずは「イデオロギーの対立」が終焉を告げた今、警察の主題は暴力団、総会屋などの組織犯罪対策に尽き、銃器・薬物・外国人犯罪、少年非行もその一環であるが、後始末の側面が強く予防行政が欠落しているとのこと。

残念ながら急用が入り上原君は二次会を欠席しましたが、司会の荒岡世話人を中心に遠く箕面から駆け付けた内海市議も交え、談論風発。確かに戦前の行き過ぎのせいで警察行政には予防行政が欠落しているが、逆に我々の活躍の場面があるということになる。予防は普通の仕事と同じで観察、情報収集、情報公開、連絡、指導、アフターケア等の要素で成り立ち我々にできない仕事ではないし、予防によって社会コストを削減出来る。又、安心して働ける社会になれば社会全体の生産性を上げることも出来るので、財政による雇用が考えられていい。保母、教師の仕事も同じで、コミュニティが崩壊し地域が予防機能を失い、高齢化社会の労働力不足が叫ばれる今、団塊レインジャーを組織し地域の予防機能を回復することで、団塊高齢者には体力・意欲に応じた雇用の場と生き甲斐が生まれ、高齢者の知識と経験の活用で安心して働ける、活力ある高齢化社会が実現する。

高齢化社会の到来で大変だと徒に騒ぐことはない。年寄りが元気で長生きできる社会は素晴らしい。年寄りも年金を貰ってゲートボールをするだけが能ではない。一方で働く意欲と知識・経験を持つ高齢者がいて、地域が年寄りや子供のケアに、快適な生活環境の維持に人手を必要とするなら、それを繋ぐシステムを作ればいい。どうせなら生かし、生かさされ、元気に楽しく長生きできればいい。

尚、第13回勉強会は五月二十日（水）6時半より介護の先進自治体三鷹市の高橋さんを講師に、千代田区の神保町複合施設で高齢者介護の実態とその解決策について学びます。

◎「徴農制」を・・・三鷹クラブでリコー浜田会長提言

十一月の三鷹クラブの定例懇談会の講師を経団連副会長でもあるリコーの浜田広会長にいただきました。先輩とは全く違うジグザグの人生航路をヨタヨタ歩いて来た者として、司会をしながら興味深く拝聴させていただきました。特に日本の将来を憂え、若者の教育のために「徴農制」をとのご提案は、リアルワールドに夢を失い、サイバーワールドに閉じこもるが如き若者をもう一度リアルワールドで遊ばせよう、若者にリアルワールドの夢を与えようという提案として面白く聞かせていただきました。小さい頃、部落の世話役として郵便局長の仕事の傍ら、鶏に山羊や綿羊、雄綿羊に乳牛まで飼う物好きで世話好きな父親の下で、農作業の他に家畜の世話や牛乳配達までやられた者としては、耕作と牧畜を組み合わせた複合経営の農業を学ばせることをお勧めしたい。その方が先輩が悩んでおられた農作業の繁雑に伴う時間の配分上も好都合であり、又、生命の何たるかを、有機農法と自然の循環システムの素晴らしさを学ばせることも可能になると思います。

一昨年11月に東大卒の父親が登校拒否して暴力を振るう中学生の息子を殺した事件がありました。あの事件の父親は東大闘争では私とは主張を異にする関係にあった様ですが、

身につまされる思いをした同世代の親が沢山いたのではないかと思います。今、家庭内暴力や拒食・過食の摂食障害、閉じ籠り等の子供を抱え人知れず悩む同世代が沢山います。家族関係の在り方と併せて、かつて管理主義教育を批判して「権威」を重視せず、より早期に子供の「人格」を認め、「対等な個」として扱おうとする団塊世代の親の子育ての姿勢にも問題があったかとも思います。又、何をしても食べていける社会、何もしなくともしばらくは親が食べさせていけるほど経済力のついた社会、高度に情報化の進んだ社会が逆に子供に何をしたらいいのか、何をしたいのか見えづらくし、甘えとストレスを増幅しているのではないかという気がします。

そんな団塊の世代が子供の教育を云々するのは気が引けますが、心も肉体と同じく病むことがあるのですから、閉じ籠りや家庭内暴力、摂食障害等の子供を抱え人知れず悩む世代の親として、だからこそ逆に教育について考えてみたい、先輩が具体的に行動に出られる時は是非お手伝いさせていただきたいと思います。

◎行革・分権の時代の自治体経営・・・第19回三鷹クラブ定例懇談会

五月七日(木)の第19回三鷹クラブ定例懇談会は橋本昌茨城県知事(S41年入寮)に登場していただきます。いつもの様に神田の学士会館本館でPM6時開場、6時半開会です。ゼネコン汚職で前知事が辞職した後の出直し知事選に、自治省の課長から故郷のために勇躍出馬、自治省で培った行政手腕を存分に発揮し、昨秋目出たく再選されました。

橋本県政に磨きのかかる二期目ですが、時まさに行政改革と地方分権の時代。行革・分権の時代の自治体経営と政治の在り方について、又、混迷する経済と財政難の下で、来るべき21世紀に向けた地域の振興と高齢化社会の住民福祉の向上をどのようにして実現して行くのか。暗い話題の多い中、発展する北関東の雄、つくば学園都市等を抱え科学技術インフラに富む茨城県の知事として21世紀の夢のある話をさせていただきます。

手を繋いで(!?)一緒に三鷹寮に入った水戸一高の同級生で、今回も橋本知事に声を掛けていただきました遠藤昭弁護士によると、急な出馬だったので当選してもお子さんの学校等の関係でしばらく単身赴任だったとのこと。サラリーマン社会では当たり前の単身赴任も知事には許されないのかなど、裏話も交えてお話ししていただければと思います。

尚、次回7月3日の記念すべき第20回三鷹クラブ定例懇談会は、三鷹クラブ代表世話人の(財)雇用振興協会平賀俊行理事長(S26年入寮・元労働省局長)に「雇用はどうなる」というテーマで話していただきます。経済構造の大転換、企業のリストラに伴い従来雇用構造が大きく変わりつつあります。一月の第17回定例懇談会の鷲尾悦也連合議長の労働運動論に続いて違った側面からこれからの雇用を語ってもらいます。

◎40・41年合同同期会を行います

折にふれ41年入寮同期会を行って参りましたが、昨年入寮時の記念写真発見(40年入寮の小林仁朗氏所有)を期に、今回は5月29日の40年会に合流させていただくことにしました。思えば寮では二学年一緒に「同じ釜の飯」を食べていた訳です。因みに42年・43年入寮組や、33年・34年入寮組はこれまでも合同で同期会を行っています。

同期会でも上の、あるいは下のあの人は今どうしているのだろうという話が出ます。幾つもの三十年振りの感動的な出会いが実現すると思います。奮って御参加下さい。会場のトップ・オブ・ザ・スクエア宴（うたげ）はパレスホテルの小林節専務（40年）に便宜を計っていただいています。なお、出欠の御返事は遠藤（40年）、干場（41年）まで、それぞれ御連絡下さるようお願いいたします。

◎再びロシアのアンサンブルと

今年も東大三鷹クラブの新年会を兼ねて、加藤登紀子さんのランチタイムコンサートを表参道のテアトロスガリー青山で行いました。昨年に比べ参加者は少し少なかったのですが、奥さん、娘さんなども一緒に楽しい時間を過ごすことが出来ました。最後にプロのお登紀さんの小林旭流「北帰行」と正調「北帰行」（元々は寮歌）を歌い比べて終わるとい、凄いいエンディングになりました。会計の方もどうにか黒字になりましたが、お登紀さん、スガリーの皆さんどうもありがとうございました。これで二年続けてお登紀さんに歌っていただきましたので、来年は趣向を変えてやはり同窓の小椋佳さんに出演してもらうのも面白いかなと思ったりしています。同じ同窓でも小沢健二では若すぎるし、エンディングに「シクラメンの香り」を大合唱するのもいいかも知れません。

ところでこの夏の第四回ランチタイムコンサートは大迫力で昨夏好評でしたロシアのアンサンブル「サドコ」を遙々ハバロフスクから迎えて、八月一日（土）の昼下がりに、所も同じテアトロスガリー青山で行います。ロシア音楽にはロシア料理とウオッカが似合います。この不況下に昼からハードドリンクを煽ったりしていいのかと気が引ける向きもあるかと思いますが、こういう時こそ気心の知れた仲間と、あるいは家族同伴で楽しく過ごすことで明日への活力が生まれるというもの。それに一足先に、草の根レベルの日露友好を計れるというものです。お登紀さんのコンサートはカップルで2万5千円の会費でしたが、今回は1万5千円を予定しています。この一万円の差額は音楽的価値の差なのか、円とルーブルの貨幣価値の差なのか。後者だとしたらルーブル安の今の内にたっぷり堪能しておくしかありません。前回は女声の歌を男性アンサンブルに歌ってもらうとか、やったことのない知床旅情を演奏してもらうとか、無知ゆえの無理を幾つか犯し主催者として大いに反省していますが、今回はサドコの得意なものを演奏してもらい、こちらがそれに合わせて合唱したりする様にしたいと思います。奮ってご参加下さい。

◎寮祭顛末

昨年は寮祭を実現しようと東大三鷹国際学生宿舍自治会の竹村委員長とも早くから打ち合わせをし、日本ビクターソフト事業本部の中村勝企画室長（S38年入寮）には目玉となるコンサートに無料出演してくれるバンドの目星までつけていただいていたのですが、肝心の寮祭の受け皿になる新しい委員会が交替期の六月を過ぎても成立せず、そのまま寮祭は流れてしまいました。中村先輩には演歌歌手ならいくらでもいるが、今時の寮生に演歌では仕方がないだろうと、売り出し中のロックバンドの手配を頼んでいたのですが、キャンセルになり申し訳ありませんでした。

年が明けて教養学部から連絡があり3月14日に「三鷹国際学生宿舎と三鷹市民の国際交流の集い」（追い出しコンパ）に金一封を持参し何人かの会員と参加したのですが、これまでの自治会と学部の共催から完全に学部主催に変化し、寮生は殆どお客さんと化しています。せっかくの民主主義の学校としての自治会、居ながらにして国際交流が出来、外国に日本を理解してもらおう場でもある国際学生宿舎がその意義を十分に発揮できないというのはいかにも惜しいことです。何かいい仕組みは考えられないのでしょうか。

◎故郷は秘境？

東北大学付属病院の新築工事でP Cカーテンウォール（高層ビルのコンクリート製外壁）の営業のため仙台へ向かう新幹線の車内で、後の座席の三十代のサラリーマン二人が何やら話をしているのが耳に入る。片方の男が語る。「秘境というイメージで観光客が少ない。街中から二時間ほどで登れる八百メートルの山があるが、地元の人には登らない。六百メートルで森林限界に達し、ブナ林が途切れ海が一望出来る。山釣りも川釣りも出来るのは珍しい。最高でも千二百メートルで鳥海山と違い本格装備でなくてもよい。白神登山口の駅が出来るまではどこから登ればいいのかわからなかったが、秋田新幹線こまちが出来て東京から六時間で行ける。飛行機でも同じくらいだ。五能線が面白い。波打ち際を走る車窓から見る日本海に沈む夕陽が素晴らしい。山菜や茸が豊富で猪も出る」。もう一人が「今の内に俺も行ってみよう」と相槌を打つと、よく行くらしい男は「地元の間人は住んでいるから良さがわからないが、都会の間人には最高だ。駅から歩いて25分で登山口に着く。尾瀬も男鹿も鳥海山も目ではない」と畳み掛ける。

秘境と言われてもそれを当たり前のこととして育った自分にはピンと来ないが、何やら自分の田舎のことを言っているらしい。ここまで聞いて隣の席の女の子が座席を去った時、私は堪らず椅子を回転させて見ず知らずの二人と対面し、話しかけていた。「そうなんです。僕はその白神山の麓の八森町の、その又外れの岩館という集落で生れ育ったんです。町にも秋田白神駅という新駅が出来て、そこにはJRの新しいホテルができるんですよ。そこからは林道を車でずっと奥まで行けるんです」。自然破壊の自覚もなく白神山地の奥深くまで道路を作ってしまったことの気恥ずかしさが一瞬脳裏をよぎりながらも、私は続けた。とうとうこの二人が那須塩原の駅で降りるまで三人の話は弾みました。

そして半年が過ぎ新幹線の車内での出来事はとうに忘れてしまったこの春になって、営業から戻って机の上を見ると、居候先のラティオインターナショナルの社員が書きとめてくれた伝言がのっている。「国立科学博物館の塚原さんから電話がありました」。だが直ぐには思い出せない。「そう言えばあの時の彼だ」、思い出して直ぐ受話器を取ると懐かしい声が聞こえて来る。世界遺産をテーマに巡回博物館を全国持ち回っていて、この五月の連休は仙台の長町モールでやることになり、青森側は岩崎村と連絡が取れたが、秋田側とつないでくれないかとのこと。都合よく二日後に県庁新館の外壁の営業で秋田へ行くことになっていたので、能代まで足をのばして宮腰市長に時間を取ってもらう。八森までの時間はなかったので市長室から菊池町長に電話し、塚原氏を紹介して協力を依頼する。

後日、八森と能代のパンフレットも会場に置くようになったと塚原氏から連絡がある。

それぞれの物産は今回は間に合わなかったようですが、次回からは八森の海産物や能代の春慶塗りなどの故郷の物産も紹介していただけたらと思います。

◎観光資源の有効活用を

風光明美で海と山の幸にも恵まれ観光資源の豊富な我が故郷ではあるが、長者番付には開業医と土建業者が名を連ね、今や名を変えた失業対策事業である「公共事業」が最大の産業と化している。美しい海岸線がテトラポットで埋め尽くされ、直ぐ土砂で埋まるコンクリートのダムが緑の山肌に爪を立てているのは、過疎地なら何処でも見られる光景だ。そんな過疎地域にこの夏、大館能代空港がオープンする。一日一便、羽田と往復するだけらしい。それなら秋田新幹線を能代まで延長した方が投資効率がよかったのではないかと、かつての運輸省航空事業課長の丸山君（S43年入寮）を国土庁秘書課長室に訪ねると、「先輩、何も作らない方がいいんじゃないの」と揶揄される。

そんな空港の利用向上を図るにも豊かな観光資源をどう活用するかという点がポイントの一つになりそうです。そういう訳で次回の能代山本フォーラム21の「町興し講演会」は運輸省の石井観光部長（S41年入寮）に講師をお願いして知恵を借りたいと思います。今国会に担当の「休日3連休法」が提出されており、外国出張の予定などもあるとのことですが、暇を盗んで是非能代に足を運んでいただきたいと思います。

◎勝手に応援だ！ん？宣言、その4・・・新八森海鮮紀行

八森海鮮紀行が装いも新たにアラカルトとして登場しました。以前この欄で紹介して何人かの読者に会員になっていただきましたが、獲れ立ての日本海の新鮮な魚介が破格の値段で産地から直送されます。ただ核家族の多い都会では一回の量が多く、隔月に忘れた頃に送られて来て、共稼ぎだと事前の連絡がつかず食べ切るのが大変な時もあります。今回はこの点にも配慮し、色々な旬の魚介の中から自分の好きなものを都度選んで注文するようになっています。我が故郷の旬の魚介を是非味わっていただければと思います。

八森町でも故郷の物産の産直を行っており、こちらの方は秋田こまちやハタハタの脂、キリタンポ鍋、地酒の白瀑、山菜、茸と山の幸も含め盛り沢山です。それぞれに美味で、秋田こまちも妻の田舎の新潟の小千谷から送られて来る魚沼産のこしひかりに引けをとりません。ただメニューが多い分だけワインなど普段家では口にしないものも入っており、一年で沙汰止みになってしまいました。こちらアラカルト方式にして、好きな物を好きなだけ頼めるようにしてはどうでしょうか。あれもこれもみんな美味しい物だから是非味わって欲しいという気持ちはわかりますが、一般的には美味しくとも、それぞれに好みがあります。それに秋田こまちなどは一年を通して食べたいものです。

漁協も町も地元の特産品の直売に努めるのはとてもいいことだと思います。利用者の立場に立って売り方にもう一工夫加えるともっと素晴らしいと思います。ゼネコンがバタバタ倒産し、農・漁協が破綻したら過疎地はどうなるのかと思います。何時までも米価と公共事業に頼っていては過疎は益々進みます。難しいことですが自立した地場経済の確立が望まれます。故郷にエールを送ってペンを置きます。